一隅を照らす運動総本部だより No.45

一隅を照らす運動ホームページアドレス
http://ichigu.net

第16回　心のつどいin比叡山

7月14・15日　比叡山延暦寺会館

第十六回「心のつどいin比叡山」（一隅を照らす運動総本部主催）を比叡山延暦寺会館で開催。七月十四日、十五日の一泊二日の日程で、一般公募で集まった男女四十一名が参加した。

一日目のはじめに、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、今出川行戒延暦寺参拝部長から挨拶を頂戴し、続いて日程説明や延暦寺会館での注意事項等の説明があり、研修会がはじまった。

最初に諸堂参拝として「根本中堂」「国宝殿」「浄土院」を巡拝した。夕食の後、『法華経』の写経に取り組んだ。参加者はみな、静寂な空気の中、集中して一文字一文字を丁寧に書き上げていた。

引き続き座談会が「自分にとっての一隅を照らすということ」をテーマに、四つのグループに分かれて開催された。露の団姫師（本運動広報大使）や、総本部職員も話しの輪に加わり、それぞれの「一隅を照らす」ことへの考えや想いを語り合い、一日目の日程は終了した。

二日目は、早朝五時半より根本中堂にて坐禅止観、朝のおつとめに参加した。早朝の清らかな空気が漂う中、参加者は緊張感を持って臨んでいた。その後、大書院での作務（清掃奉仕）を行った。

朝食の後、延暦寺会館から移動し、京都の赤山禅院を参拝。現在、天台宗では「祖師先徳鑽仰大法会」の期間中で、本年は「相応和尚一千百年御遠忌」の御祥当年にあたる。今回は特別参拝として、北嶺大行満大阿闍梨・叡南俊照師（延暦寺一山律院住職）が修法される護摩供に随喜した。

研修会を終えた参加者からは「流されやすい日々の生活の中で自分を見つめなおす機会になりました」「根本中堂での坐禅や朝のおつとめは、普段経験できない特別な事のように感じる、充実した時間でした」と感想を述べていた。

一隅を照らす運動ニュース

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

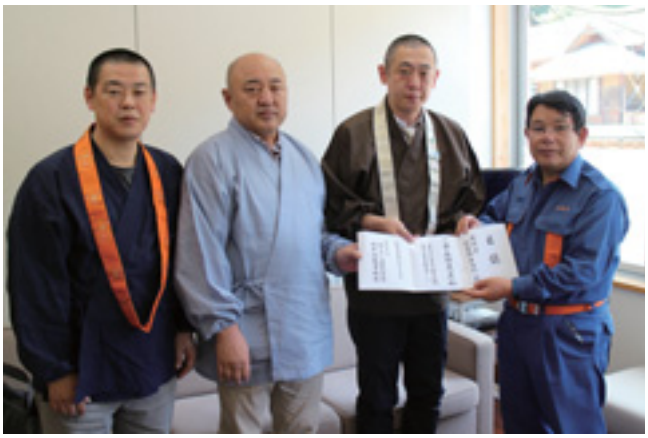
平成二十九年六月二十六日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において平成二十九年度第一回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、平成二十八年度一隅を照らす運動の事業報告、各会計の決算等が審議・承認された。

また、今回の理事会で、理事長に杜多道雄師（宗務総長）、専務理事に森定慈仁師（参務一隅を照らす運動総本部長）、理事に甘井亮淳師（参務財務部長）・森田源真師（参務教学部長）・林光俊師（参務社会部長）・吉澤道人師（信越教区光前寺住職）・見上知正師（山陰教区大日寺住職）・竹内純照師（京都教区吉祥院住職）の就任が報告された。

◎九州北部豪雨災害被災地へ支援金を寄託

平成二十九年七月十三日、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」では、平成二十九年七月五日に九州北部を中心に発生した豪雨災害被災地に緊急救援引当金からの支援金を特に被害の大きかった福岡県朝倉市・福岡県東峰村、大分県日田市へ寄託した。

被災地域の市町村役場へ森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、甘井亮淳天台宗参務財務部長、嘉瀬慶文九州西教区本部長が赴き、それぞれに支援金五十万円の目録が手渡された。



◎日本ユニセフ協会へ支援金を寄託

平成二十九年八月四日、比叡山宗教サミット三十周年「世界平和祈りの集い」（比叡山延暦寺）の開催日に合わ

せて、日本ユニセフ協会への募金寄託式が行われた。

この募金は、毎年八月に行われる「天台青少年比叡山の集い」に参加したリーダーと研修生の小中学生が出し合った募金と、全国から寄せられた浄財を合わせたもので、総額は三百万円。

寄託式では、天台青少年比叡山の集いに参加した研修生の代表から大樹孝啓一隅を照らす運動会長へ目録が、引き続いて大樹会長から早見研日本ユニセフ協会専務理事に目録が手渡された。

◎「しょうぐうさん体操」を公開

一隅を照らす運動総本部では、本運動発足五十周年を二年後に控え、次世代を担う幼少年から青年層への働きかけを活性化させたいと考えており、本運動キャラクター「しょうぐうさん」を活用した事業の一つとして「しょうぐうさん体操」を創作した。作詞・振付を、アニメ「妖怪ウォッチ」の『ようかい体操第一』を手がけたラッキィ池田氏、作曲はＮＨＫ教育などに多くの楽曲を提供している中谷靖氏に依頼した。

本体操は、平成二十九年八月二十六日に開催された天台保育連盟全国保育大会において初公開され、完成した「し

ようぐうさん体操」のＤＶＤ・ＣＤについても宗内寺院への配布が完了している。

この体操の目的は、子どもたちの身体を健やかにすることはもちろん、仏さまの慈愛のこころを子どもたちのこころに芽吹かせたいという願いがこめられている。この体操を通じて、多くの方々に一隅を照らす運動に関心を持っていただき、一隅を照らす人材の育成に活用いただきたい。

◎聖エジディオ共同体に支援金を贈呈

平成二十九年九月十日から十二日にかけて、ドイツのミュンスター並びにオスナブリュックで第三十一回「世界宗教者平和の祈りの集い」が聖エジディオ共同体の主催にて開催された。

一隅を照らす運動総本部では、世界の子どもたちの福祉と教育向上を願って、聖エジディオ共同体へ支援を行っている。

本年も世界宗教者平和の祈りの集いに合わせて、天台宗代表使節団の西郊良光名誉団長（天台宗宗機顧問）、杜多道雄団長（天台宗宗務総長）の両名より、聖エジディオ共同体アジア地域担当部長アゴスティーノ・ジョバニョーリ氏に支援金三十万円を寄託した。

◎一隅フェスティバル in 気仙沼を開催

平成二十九年九月三十日、宮城県気仙沼市の観音寺（鮎貝宗城住職）にて一隅を照らす運動総本部が主催する「一隅フェスティバル in 気仙沼」が開催された。このフェスティバルは「祈りと癒しと笑いのひととき」をテーマに本運動企画運営委員（見上知正委員長）、天台仏教青年連盟、埼玉・群馬・茨城・栃木・福島・陸奥・山形教区の各仏教青年会有志の協力を得て行われた。

フェスティバルでは、はじめに森定慈仁総本部長を導師に慰霊・復興祈願法要が厳修された。法要後の開会式では、森定総本部長より「一隅を照らす」という言葉についての説明と本フェスティバル開催の主旨が述べられた。続いて、観音寺鮎貝住職より「復興が進む中、先日観音寺にて七回忌法要を厳修した。気仙沼市にも復興住宅が完成し、少しずつ皆様の笑顔と元気が戻ってきている。本事業を通して、明日から皆様とより元気な気仙沼の町を再び作ることが出来るよう進んでいきたい」と挨拶があった。

休憩を挟み、復興祈願奉納太鼓が泉智仁師により演奏された。自身も震災の被災者である福島県出身の泉師は、

東日本大震災の復興を願い国内外で演奏活動をされている。今回の演奏では、新たな試みとして声明とともに行う演奏も組み込まれていた。その迫力ある演奏を目の当たりにした観衆は、演奏が終わると大きな拍手を贈っていた。その後、復興支援寄席として紙切り師の林家楽一氏による紙切りと噺家の蜃気楼龍玉師匠、三遊亭じゅうべえ氏による落語が披露されると、観衆からは大きな笑いと拍手が巻き起こっていた。

最後に森定総本部長から、気仙沼市社会福祉協議会会長齊藤典夫氏に東日本大震災被災地支援として義援金三十万円が寄託され、フェスティバルは閉会となった。

一隅を照らす運動推進大会

○信越大会

信越教区本部（岩田真亮教区本部長）では、平成二十九年六月十日に長野県佐久市の弥勒寺を会場に、一隅を照らす運動推進大会信越大会を開催し、約百四十名の参加者が集まった。

大会式典のはじめに、岩田教区本部長を導師に法楽が執り行われた。その後、岩田教区本部長、吉澤道人宗議会議員、弥勒寺住職江原紘誠師より、開催にあたり挨拶並びに祝辞があった。

続いて、森定慈仁総本部長より、「一隅を照らす運動」発足五十周年にむけた企画や事業、若年層へ向けた取り組みの重要性、総本部が行っている救援活動について、取り組むべき心のあり方、生き方について講話があった。日本の子どもの貧困問題、自死問題に対しても、「一隅を照らす運動」としてどのような取り組みができるのかを考えていく旨を幼児教育の重要性とともに力強く語られた。

大会式典の最後には、参加者全員で「推進の誓い」として、「一隅を照らす運動」実践三つの柱である「生命」「奉仕」「共生」の復唱が行われた。

休憩後、天台宗務庁出版室横山和人編集長より「天台宗の取材ノートから『千日回峰行に死す』正井観順行者の二千五百五十五日」と題して記念講演が行われた。正井師の足跡をたどり、「千日回峰行」の細かな説明や、自身の体験等を交えながらの講演に、参加者一同は興味深そうに聞き入っていた。

講演後、小林玄海信越教区布教師会会長より大会への謝辞が述べられ大会は閉会となった。

○東京大会

東京教区本部（杜多徳雄教区本部長）では、平成二十九年六月十六日に浅草公会堂を会場に、第四十七回一隅を照らす運動東京大会を開催し、約千名の参加者が集まった。

第一部の大会式典では、神田秀順寛永寺住職導師のもと法楽が執り行われ、天台聲明と雅楽の公演があり、杜多教区本部長、杜多道雄本運動理事長、森定慈仁本運動総本部長、今出川行戒延暦寺副執行より、開催にあたっての挨拶と祝辞があった。挨拶の中で、杜多理事長は「旬の物を旬の時期に食べるというちょっとしたことで、環境に対して意識することができ、それが一隅を照らすということにもつながる」と話された。また、森定総本部長は、「本運動発足五十周年を目前に控え、ますます活発に運動を展開していく予定であり、みな様のご協力をお願いしたい」と話された。

式典の最後に表彰状の授与があり、杜多教区本部長より「一隅を照らす運動」実践者に対して表彰状が贈られた。

第二部では、相田みつを美術館館長の相田一人氏より「自分の番　いのちのバトン～父　相田みつを　を語る～」と題して講演があり、相田氏のユーモアを交えた話に来場者はときおり笑い声を漏らしながら耳を傾けていた。書家としての相田みつを氏、

父親としての相田みつを氏を交差させながら、人間としての相田みつを氏がどのような人生を歩んだのか、何を伝えたかったのかを息子の視点から優しい語り口で話されていた。

最後に、關口晃成教区副本部長より閉会の挨拶があり、大会は幕を閉じた。

○兵庫大会

兵庫教区本部（荒樋勝善教区本部長）では、平成二十九年六月十六日に丹波市のライフピアいちじまを会場に、第四十八回天台宗兵庫教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動推進大会・特別授戒会を開催し、教区内寺院住職、檀信徒ら約五百五十名が参加した。

はじめに、荒樋教区本部長を導師に法楽が執り行われたあと、荒樋教区本部長、野花敏郎檀信徒会会長より挨拶、続いて國岡惠心宗議会議員より祝辞が述べられた。

檀信徒会総会の終了後に推進大会が開催され、はじめに一隅を照らす運動実践者表彰が行われた。天台宗参務森田源真教学部長より長年に亘り菩提寺に貢献され、地域の模範として一隅を照らす運動を実践されている檀信徒六名に表彰状が授与された。

続いて、特別授戒会に先立ち兵庫教区布教師会会長の吉田実盛師より説戒があった。昼食を挟み、祖師先徳鑽仰大法会記念の特別授戒会が厳かな雰囲気の中で執り行われ、大会の日程は終了となった。

○東海大会

東海教区本部（柴田真成教区本部長）では、平成二十九年六月十七日に名古屋市の覚王山日泰寺普門閣を会場に、東海教区檀信徒会総会並びに一隅を照らす運動東海教区推進大会を開催し、住職・寺族・檀信徒ら約二百名の参加

者が集まった。

第一部では、檀信徒会総会が行われ、はじめに柴田教区本部長導師のもと法楽が行われ、神谷雍彦教区檀信徒会会長より挨拶があった。檀信徒会総会での議事終了後、岡山教区本山寺法嗣泉智仁師による「いま、ここに生きる～東日本大震災を経験して得たこと～」と題した講演が行われた。福島県出身の泉師は、震災での体験を語り、困難に直面したとき自らの足で立ち上がる勇気、自他への感謝の心、生きることの大切さを力強く話されていた。

第二部では、推進大会が開催され、はじめに柴田教区本部長より挨拶、次に来賓より祝辞がそれぞれ述べられた。続いて森定慈仁総本部長より「一隅を照らす運動」について講演があった。森定総本部長は、この運動が身近なことからはじめられる運動であることを語り、これからの時代を担う若い世代にこそ、本運動の精神を伝えて行くことが重要であると語られた。つぎに公演として「和太鼓と天台声明のジョイントコンサート」が行われた。泉師による迫力ある和太鼓と教区仏教青年会僧侶による厳かな天台声明のコラボレーションに参加者は聞き入っていた。

最後に「比叡山仏道讃仰和讃」を参加者全員でお唱えし、大会は幕を閉じた。

○南総大会

南総教区本部（髙橋隆叡教区本部長）では、平成二十九年七月三日に勝浦市の勝浦市芸術文化センター「キュステ」を会場に、第十七回南総教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約八百名の参加者が集まった。

第一部のはじめに、福聚教会南総本部・茅花の会・妙覺寺・常福寺・長光寺・圓明寺支部による御詠歌が詠唱、小宮山将順教区仏教青年会会長導師のもと教区仏教青年会出仕により法楽が厳修された。その後、髙橋教区本部長、稲垣弘教区檀信徒連合会会長より挨拶、細野舜海宗議会議員、猿田寿男勝浦市長より祝辞が述べられた。続いて、森定慈仁総本部長より本運動発足五十周年にむけた企画や若年層への想い、運動を通じて取り組むべき行動や心のあり方について述べられた。引き続いて天台座主猊下からの表彰状の授与が森定総本部長より行われ、教区内檀信徒二名が表彰された。

第一部の最後に、参加者全員で「一隅を照らす運動」実践三つの柱である「生命」「奉仕」「共生」の復唱が行われた。

第二部では、はじめに本運動広報大使の露の団姫師より「落語家・まるこの仏道修行」と題した講演があり、会場内は大きな笑い声に包まれていた。続いて、延暦寺一山伊崎寺住職上原行照師より「相応和尚と回峰行」と題した講演が行われた。相応和尚について自身の体験を交えた回峰行の話に参加者は真剣な面持ちで聞き入っていた。講演終了後には、参加者全員に上原師より念珠加持が授けられ、今まで経験したことがない貴重な体験にみな喜んでいる様子であった。

○三岐大会

三岐教区本部（森喜良教区本部長）では、平成二十九年七月二十九日に郡上市の長瀧寺並びに白山神社を会場に三岐教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約三百五十名の参加者が集まった。今大会は、白山開山一千三百年祭並びに相応和尚一千百年大法会として行われた。

はじめに白山神社拝殿にて神事が執り行われ、叡南覚範探題大僧正より表白の読み上げ、教区出仕僧らによる声明の奉納がなされた。

つぎに会場を長瀧寺大講堂に移し、叡南探題大僧正を大導師に仏式の法要が執り行われた。法要の後、叡南探題大僧正からの挨拶並びに法話、続いて森教区本部長、白山神社宮司からの挨拶があった。

休憩の後、金剛童子堂前にて森定慈仁総本部長より挨拶、続いて光永覚道大阿闍梨の護摩祈願法要が修され、大会は幕を閉じた。参加者にとって、古来の神仏習合の時代を垣間見ることのできる貴重な機会となった大会であった。